



近畿大学 サステナビリティ レポート 2024

SDGs達成にむけた本学の取り組みについて

『持続可能な開発目標（SDGs：Sustainable Development Goals）』とは、国連により2001年に策定された『ミレニアム開発目標（MDGs：Millennium Development Goals）』の後継として、2015年の国連サミットで採択された「2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標」です。貧困、教育、エネルギー、経済成長、気候変動など17分野のゴールと、169の具体的なターゲットで構成されているこの目標は、地球上の「誰一人取り残さない（Leave No One Behind）」ことを誓っています。既に周知のようにわが国でも産・官・学のあらゆる組織において、関連した様々な取り組みが行われており、2025年に開催される大阪・関西万博においてもSDGs達成への貢献を目標の1つに掲げ実施されます。

現在、世界は気候変動による異常気象や、各国におけるエネルギーや食糧の安定確保に関する不安、さらには格差や紛争など、多くの困難に向き合っています。人類がこの困難に打ち克ち、今後も存続し続けるためにも、私たち一人ひとりがSDGsの17のゴールを意識し、自分なりに可能な取り組みを行うことが不可欠です。

近畿大学は、2025年11月にはおおさかメディカルキャンパスを開院させ、また2026年4月には新たに看護学部を開設します。医学部を含む16学部50学科を擁する総合大学として、養殖漁業、バイオコークス、環境・まちづくり、クリーンエネルギー、次世代農業など数多くの研究や社会貢献を行ってまいります。また、国際社会に対応できるグローバル人材や、Society 5.0の実現に向けた先端IT人材の育成も目指しております。

さらなる次世代の教育・研究機関を目指す近畿大学は、学内外の組織、あるいは学生も含めた個人のSDGsの目標達成に関連する取り組みを積極的に支援することを宣言します。

具体的には、学内におけるSDGsのシーズを整理し、ゴール達成に利する研究開発を支援し、これらから生まれる活動成果を社会に向けて積極的に発信・展開していく所存です。皆さまの温かいご理解とご支援をお願い申し上げます。



近畿大学学長 松村 到

物価高騰のなか、一人暮らしの学生・留学生に食料品を無償で提供 卒業生の協力で学生5,000人を支援



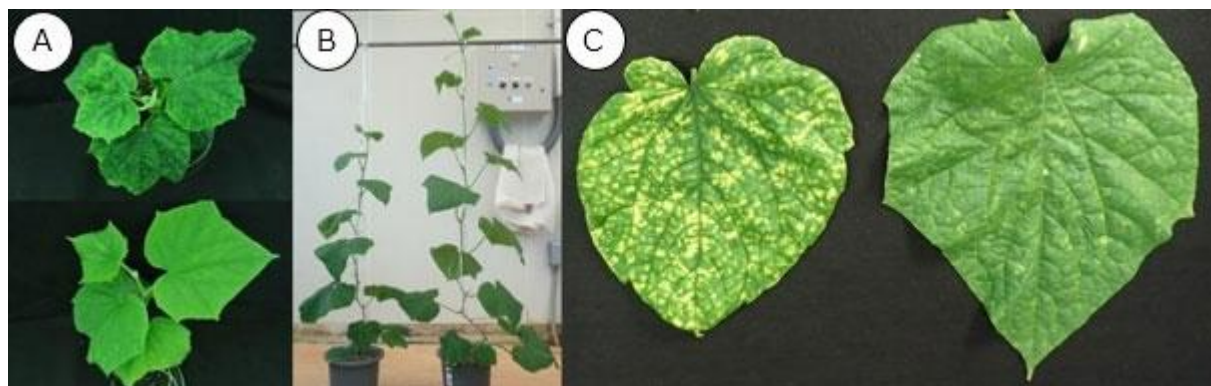
卒業生の同窓会組織「近畿大学校友会」の支援を受け、物価高騰の影響で生活に負担を抱える一人暮らしの学生や留学生ら5,000人を対象に、食料品を無償配付しました。今年度は2025年1月8日に大阪狭山キャンパスで開始し、全6キャンパスと併設学校で実施。金賞健康米や近大マグロ中骨エキス入りみそ汁などの近大関連商品に加え、レトルト食品や缶詰などを詰め合わせたセットを配付し、今回で4年連続の取り組みとなりました。



世界初！キュウリのペゴモウイルス抵抗性遺伝子を特定 世界中で問題となっている農作物のウイルス病被害低減に繋がる成果



農学部の小枝准教授の研究グループは、キュウリにおけるペゴモウイルス抵抗性遺伝子を世界で初めて特定しました。原因遺伝子RDRを突き止め、抵抗性個体を識別するDNAマーカーも開発。これにより品種改良が可能となり、深刻なウイルス病による被害の軽減や、農薬使用量の低減が期待されます。



大阪大学公式クラウドファンディング（大阪大学×近畿大学 コラボプロジェクト）

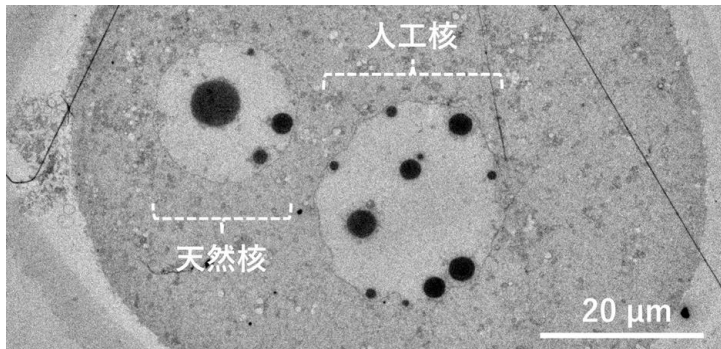
腹部大動脈瘤の治療薬創出を目指して！ —「腹部大動脈瘤患者に対する世界初のトリカプリン投与試験」にご支援を—



農学部は大阪大学医学部附属病院と連携し、2024年9月9日、腹部大動脈瘤の新治療薬開発を目指す臨床試験継続・拡充のため、クラウドファンディングを開始しました。瘤を縮小させる成分トリカプリンの臨床試験を進めていますが、人員・資金不足が課題となっていました。資金は試験拡大や、より専門的・先進的な解析費に充てられ、創薬実現と患者の不安軽減を目指して支援を呼びかけています。

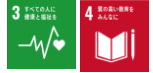


世界初！卵子にDNA溶液を注入することで人工細胞核の構築に成功 細胞核の機能獲得メカニズムの一端を明らかに

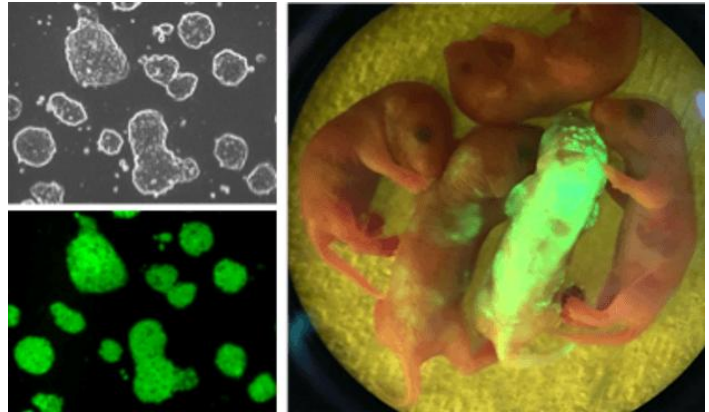


生物理工学部の山縣教授の研究グループは、大阪大学等と共同で、精製DNAを生きたマウス卵子に注入し、核輸送能力を持つ人工細胞核の構築に世界で初めて成功しました。DNAの長さや濃度、注入時期など最適条件を解明し、本物に近い構造を再現。核形成の仕組み解明に貢献し、将来は絶滅動物の復活や人工生命創生などへの応用が期待されます。本件に関する論文は、8月14日に、国際的な科学雑誌「Genes to Cells」に掲載されました。

世界初！ES細胞用の科学的再現度が高い無血清培地を開発 培養肉の生産技術確立にもつながる研究成果



農学部は大阪大学や東邦大学等との共同研究で、マウス多能性幹細胞用の新たな無血清培地「DARP」を開発しました。ウシ胎児血清を用いず、成分を明確化することで再現性と精度を向上させます。倫理的・持続可能性への懸念軽減にも寄与し、再生医療や培養肉生産技術の発展が期待されます。



不妊治療で用いる排卵誘発剤「クロミフェン」の新規合成法を開発 安価で迅速な製造工程の確立に期待



理工学部の松本浩一教授らの研究グループは、不妊治療薬クロミフェンを最短2段階で合成する新手法を開発しました。

安価で入手が容易なテトラクロロエチレンを原料に用い、従来より低コスト・短工程で製造可能となりました。今後は収率向上などを進め、実用化を目指します。これにより、不妊治療への貢献や製造エネルギー削減が期待されます。

この成果は日本化学会で発表されました。



【大阪・関西万博】5月31日（金）「万博教室 in 近畿大学」を開催 "Dialogue Series: Expo 2025 – Empowering Youth"



公益社団法人2025年日本国際博覧会協会と共に、2024年5月31日、「万博教室」を開催しました。大阪・関西万博の公式参加者であるオランダ・英国・フランスの総領事が登壇し、各国の未来社会への取り組みを紹介。学生や一般参加者が地球規模の課題やSDGsへの理解を深める機会となり、万博での活用に向け、AI多言語同時通訳の実証実験も実施されました。



廃校となった旧飯坂小学校で、地域資源を活用した地方創生イベント 「ジャパンコーヒーフェスティバル 2024 in 川俣町」を開催



社会連携推進センターは、福島県川俣町と連携し、「ジャパンコーヒーフェスティバル2024」を開催。廃校を活用し、学生が運営や出店を担い、地域交流と観光促進に貢献しました。このイベントは、復興支援と人材育成、地方創生を目的とした復興知事業の取り組みの一環で、売上金は福島県東日本大震災子ども支援基金に寄付されました。

近畿大学×水都大阪コンソーシアム×三井ガーデンホテル大阪プレミア 大阪への再訪を促す外国人観光客向けイベントを実施



経営学部の布施ゼミは、株式会社三井不動産ホテルマネジメントと共に、外国人観光客の大阪への再訪促進を目的に「お手紙ワークショップ」を開催しました。和紙の便箋や和柄の封筒を用い、学生が関西弁を教えながら未来の自分宛の手紙作成を支援。日本文化の体験とともにインバウンド施策を学び、大阪観光での魅力の向上を図りました。



近畿大学病院が「第17回がんセンター市民公開講座」を開催 「乳がん」について家族や大切な人と学び、考える機会に



近畿大学病院は、2025年3月22日、市民公開講座を開催し、乳がんの最新治療やケアについて正しく理解する機会を提供しました。形成外科・外科・内科の専門医による講演や写真家の特別講演を実施し、乳がん体験者向けの下着展示や試着会も行いました。この講座は、地域住民や患者が理解を深める機会となり、がんの知識や治療法の普及・啓発を図っています。



MLGsを学んでサンタさんを助けよう！



経営学部 of 岩井ゼミは、琵琶湖博物館で小学生向けワークショップを開催。イネ科のヨシを使ったクリスマスリース作りやゲームを通じ、琵琶湖の環境保全指標「MLGs」を楽しく学びました。ヨシの役割や地域の環境問題を体験的に理解し、自分事として考える機会を提供する企画で、環境意識の向上を目的としています。



微生物に物理的ストレスを与えない画期的な液体培養方法 微生物を用いて実験の省エネ・省スペース化も実現する研究成果



生物理工学部の秋田教授らは、セルフフィルム研究所と共同の研究で、高酸素透過性のTPX製フィルムバッグを用い、微生物に物理的ストレスを与えず静置培養できる手法を開発しました。従来必要だった振とうや通気が不要となり、省エネルギー・省スペース化を実現。新たな増殖過程の観察も可能となり、空間とエネルギー使用が制限されるような微生物研究や宇宙環境での応用が期待されます。

農学部×奈良県曽爾村×曽爾村農林業公社

農産物の定期購入等を行う「そののわCSA」の2024年前期分を開始

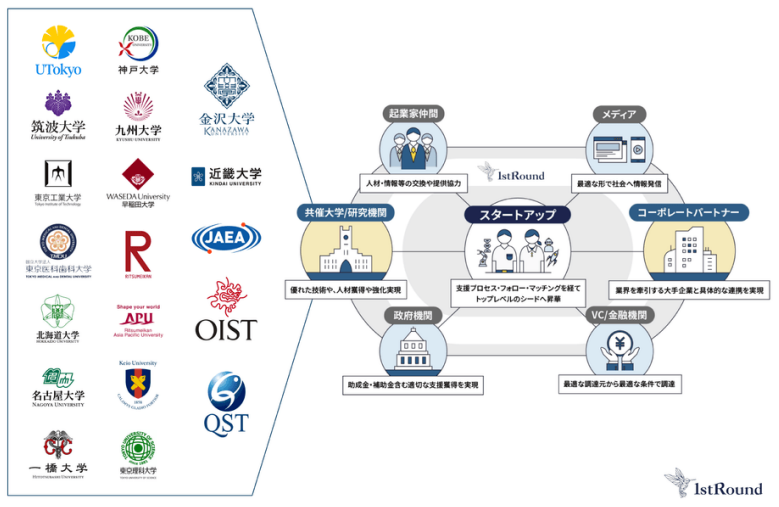


農学部と曽爾村、曽爾村農林業公社は、CSA（地域支援型農業）「そののわCSA」を連携により実施しています。学生や教職員有志が会員となり農産物を定期購入し、2024年前期は全5回受け渡しを行っています。前払いで農家を支える仕組みを通じ、地域農業の振興やコミュニティ形成等の効果をもたらし、農業者と消費者の交流促進に寄与する取り組みです。



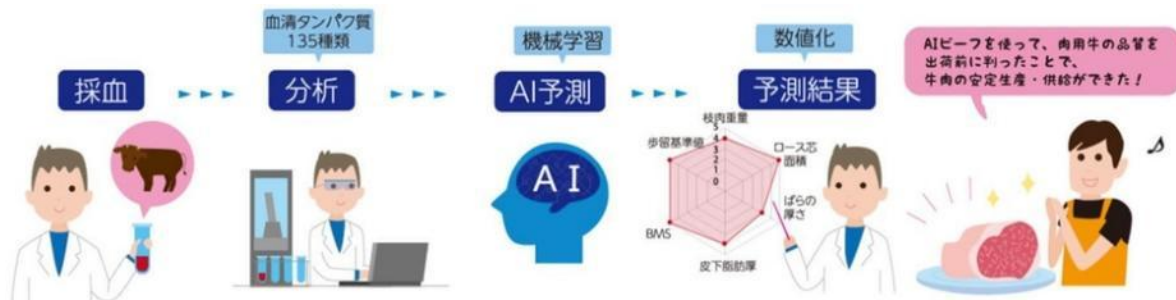
国内最大規模のアカデミア技術シーズ社会実装プログラム「1stRound」へ 共催17大学に加え国立研究機関も参画

（近畿大学、沖縄科学技術大学院大学（OIST）、金沢大学、東京理科大学に加え、日本原子力研究開発機構（JAEA）、量子科学技術研究開発機構（QST）が参画）



東京大学協創プラットフォーム開発株式会社らによる起業支援「1stRound」に、沖縄科学技術大学院大学や金沢大学、東京理科大学や日本原子力研究開発機構、量子科学技術研究開発機構と共に参画。大学に加え研究機関も含む国内最大級の起業支援体制へ拡大しました。技術シーズの社会実装を目的に、資金や伴走支援を提供し、高い資金調達成功率と企業連携を実現しています。

近畿大学発ディープテックスタートアップが次世代の畜産業創出に挑戦 世界初の「AIビーフ技術」で肉用牛の個体差を可視化



生物理工学部の松本和也教授は、「AIビーフ技術」を活用し、肉用牛の採血から将来の肉質を予測したサービスを提供する「株式会社ビーフソムリエ」を設立しました。血液中のタンパク質をAI分析し、出荷の1年以上前に肉質や重量を可視化できます。これにより肥育改善や飼料コスト削減が可能となり、生産効率向上や畜産経営の安定化、次世代畜産業の発展への貢献が期待されます。

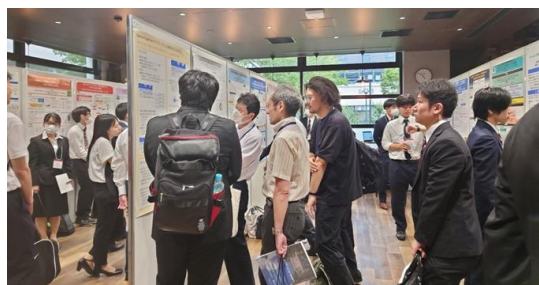
起業を志す学生への支援のために、事業検証の場を提供 2024年12月から1年間、近鉄奈良線「河内小阪」駅前にて



近鉄不動産と連携し、河内小阪駅前の土地を学生の起業支援として事業検証の場に活用する取り組みを始めました。第一弾では経営学部生が移動式古着屋の実証を実施し、販売やリメイク体験を通じてビジネスモデルを検証しました。この取り組みは、起業支援プログラム「KINCUBA」の一環で、学生の実践的な起業力育成を図りました。



「近畿大学大学院 第12回院生サミット」を開催 大学院生らが研究成果の発表を通して相互に学び合う



2024年8月31日、東大阪キャンパスで大学院生サミットを開催しました。6キャンパスの院生らが集い、2050年の地球環境や日本の超高齢社会、世界紛争などの課題解決に向けた研究成果を発表。シンポジウムやポスター発表を通じ、分野横断的な交流を図り、若手研究者・技術者の育成とイノベーション創出を目指しました。

次世代食材・豆腐ミートを使ったパスタソースを開発 宗教やベジタリアンなど、思想の枠を超えて誰でも口にできる商品



経営学部 古殿ゼミは、イタリアンレストラン
Mystiqueと協働し、豆腐ミートを使ったレトルト
「ポロネーゼ」を開発しました。動物由来原料不使用
で多様な食文化に対応し、学生が企画から販売まで担
当する実学教育の一環として、商品は学内店舗で数量
限定販売されました。

ホルベイン、近畿大学ら5団体による共同開発 100%天然アロマが感性を刺激する「香るアクリル絵具」新発売



感性学を学ぶ文芸学部の学生らは、アットアロマか
ら、天然アロマで香り付けしたアクリル絵具
「Scented Colors」を発売しました。全盲の画家
まーちゃんとの出会いから生まれたこの絵の具は、6
色それぞれに香りを持たせ、視覚障がい者も含めた
誰もが楽しめる創作を実現しました。企業・団体と
共同開発し、香りと色の相互作用で感性を刺激する
新しい表現を提案。福祉や教育分野での活用やワー
クショップ展開を想定し、クラウドファンディング
にて目標額の100万円を無事達成しました。



万博でも展示！ 脱プラでエコな砂糖「アイスドリンクシュガー」を近畿大学文芸学部生デザインの新パッケージで発売



文芸学部の柳橋ゼミは、株式会社フォレストパックスと連携し、冷たい飲料にもよく溶ける顆粒状の砂糖である環境配慮型商品「アイスドリンクシュガー」の新パッケージを開発。市場調査やコンペを経て、白熊キャラクターを用いた親しみやすいデザインが採用され、2024年7月に発売。

本商品は大阪・関西万博でも展示され、学生の実践的学習と商品価値向上に寄与しました。

近畿大学発ベンチャー「株式会社古殿研究所」がグラングリーン大阪にパーソナライズドリンク提供サービスを設置



近畿大学発ベンチャーの株式会社古殿研究所は、個人の健康状態や嗜好に応じた飲料を提供するサービス「DRIGGER」を開発し、2025年3月、グラングリーン大阪内の施設「SLOW AND STEADY」に試験導入しました。マイボトル利用で環境負荷を減らしつつ、IoTにより最適なドリンクを提供し、オフィスワーカーの健康的な働き方をサポート。企業の生産性向上に貢献することを目指しています。

あなたのためのサブドリンクをつくるよ！
Supplemental drinks just for you

QRコードを読み取ってスタート

drink + trigger
DRIGGER

今のあなたのニーズは？
What are your needs right now?

目が疲れる
eyes get tired

身体が重い
body is heavy

疲れやすい
tired easily

寝不足
sleep deprivation

潤い肌を
目撃！

若々しく
いたい

drink + trigger
DRIGGER

これでOK？
Is this OK?

あなたのニーズ / Your Needs

「目が疲れる」
eyes get tired

栄養素 / nutrient
「テアニン」は、疲労に由来するアミノ酸の一種。
theanine

ベースのドリンク / Base drink
「柚子ウォーター」
Yuzu Water

ドリンクの量 / Amount of drinks
100ml

O K

11

ペットボトルレス・キャンパスの実現に向けて マイボトルへのドリンク提供サービスの事業検証を実施



経営学部 of 古殿ゼミは、古殿研究所と連携し、マイボトルへのドリンク提供サービスの事業検証を実施。食堂にサーバーを設置して有料提供し、利用状況やボトル普及を分析しました。ペットボトル削減による環境負荷低減と持続可能なキャンパス実現を目指す取り組みの一環です。

買い物の利便性と公共交通の収益を同時に向上させることを目指す 地域課題の解決に向けて「貨客混載実証プロジェクト」始動



経済学部の新井ゼミは、全但バスや阪急阪神百貨店と連携し、貨客混載による移動販売の実証プロジェクトを実施しました。

高速バスで商品を運び、買い物不便地域の利便性向上と公共交通の収益改善を目指しています。学生は需要や価格の調査を行い、地域課題解決に向けたモデル構築と政策提言を図りました。



飯塚市主催「エコLightナイト」で近大生デザインのランタンを児童が制作 児童が省エネや地球温暖化防止について考える機会に



産業理工学部の小池ゼミは、飯塚市主催の「エコLightナイト」に参加し、児童と共にエコ素材を使ったランタン制作を行いました。近大生が設計・指導し、空き瓶や牛乳パックを活用したソーラーランタンを制作。楽しみながら省エネや地球温暖化防止への意識向上を促す取り組みで、完成後は点灯して展示しました。



DNPとSoELaと近畿大学

産学連携で子どもたちが琵琶湖周辺の環境課題を学べるカードゲームを制作 大阪・関西万博の機運醸成イベント「爆やお博」で体験ワークショップを実施



アカデミックシアターの「循環型社会へのアプローチプロジェクト」は、大日本印刷やNPOらと連携し、環境学習カードゲーム「マイアース」の琵琶湖版を制作しました。学生が生態系や環境課題を調査し、カード内容を考案した、遊びながら学べる教材です。

イベントでは体験型ワークショップを実施し、地域の環境意識向上とSDGs推進を目指しました。

奈良県内の大学初！近畿大学農学部「近大里山ビオトープ」が 環境省の「自然共生サイト」に認定 認定証交付式・見学会を実施



農学部が奈良キャンパスに整備した「近大里山ビオトープ」が、環境省の「自然共生サイト」に奈良県内の大学で初めて認定されました。学生と教員が整備し、絶滅危惧種が生息する貴重な生態系を保全する教育・研究の場として活用されています。今後は見学会などを通じて活動を発信し、生物多様性の保全や持続可能な社会の実現を目指していきます。



近畿大学と新潟県立海洋高等学校が育てたノドグロ稚魚 昨年の5倍となる約37,000尾を新潟の海に放流



水産研究所と新潟県立海洋高校は、アカムツ（ノドグロ）の完全養殖を目指し共同研究を実施。2025年3月、前年の約5倍となる約3万7千尾の稚魚を糸魚川市筒石沖に放流しました。人工ふ化や飼育技術の進展により種苗生産は拡大しており、今後は安定生産や最適な放流方法の確立、効果検証を進めます。地域漁業者とも連携し、資源保全と持続可能な水産業への貢献を目指す取り組みです。

水産研究所でマレーシア・サバ大学からの研修生を受け入れ 5月13日（月）から78日間、水産研究所で養殖技術を学ぶ



水産研究所は、2024年5月～7月の78日間、マレーシア・サバ大学の学生4人を6年ぶりに受け入れ、養殖技術研修を実施しました。2004年の協定以来17回目で、累計113人を受け入れてきました。サバ大の学生は本学学生と共に魚の飼育や魚病研究などを学び、国際交流と現地の人材育成に寄与します。



「TEAM EXPO 2025」テーマセッション 第2回近畿大学×神戸大学SDGsフォーラム「資源循環型社会と里山の関係」 ～SDGsの観点での里山管理のありかた～



TEAM EXPO 2025の一環として神戸大学と共同でSDGsフォーラムを開催し、「里山環境」をテーマに、神戸市副市長らが講演し、討論を行いました。資源循環や森林利用、生態系保全などについて多角的に議論し、地域連携と共創による課題解決や持続可能な社会の実現を目指しています。

国際学部 桑名ゼミによる社会貢献活動に対し 国際ソロプチミスト大阪からの支援が決定



国際学部桑名恵ゼミは、子ども食堂や難民支援、多文化共生、食品ロス削減などの社会貢献活動が評価され、国際ソロプチミスト大阪から「近大ソーシャルアクション・プロジェクト」として認証・支援を受けました。認証式では学生が活動報告を行い、支援を通じて活動の継続・発展を図っています。サービスラーニングを取り入れた実践的な学びにより、市民性や社会課題を捉える力、社会起業精神を養い、今後は食の多様性や子ども食堂での英語活動など新たな取り組みにも挑戦します。



大阪・関西万博「TEAM EXPO 2025」共創チャレンジ 「SDGs WEEK in KINDAI 2024 ～SDGsをもっと多くの 人たちに～」を開催



社会連携推進センターは、「SDGs WEEK in KINDAI 2024 ～SDGsをもっと多くの人たちに～」を開催しました。古着ファッションショーや海洋プラスチック工作、VR体験などを通じて環境意識向上を図るほか、上原浩治氏の講演も実施。大阪・関西万博の共創チャレンジの一環として、学生と教職員がSDGs達成への取り組みを学ぶ機会となりました。

